

中規模地域拠点病院への術中迅速 遠隔病理診断支援の現況と今後の課題

(株)秋田病理組織細胞診研究センター

阿部 博之 阿部 一之助 齊藤 千佳 及川 守康

金子 翔 阿部 彩 鎌田 江美子 杉山 達朗

秋田大学医学部病理診断科・病理部

南條 博 後藤 明輝

雄勝中央病院

増田 弘毅

当センターは 2003 年に開業以来、地域医療の一助となるべく、病理診断、細胞診断を通して医療機関と密接な連携を心がけている。

そのひとつとして、術中迅速遠隔病理診断支援を積極的に進めている。現在では、4 力所の中規模拠点病院で乳がんと肺がんの手術症例を中心に施行している。

今回、過去 5 年間の症例を解析し、術中迅速遠隔病理診断支援の現況と今後の課題について述べる。

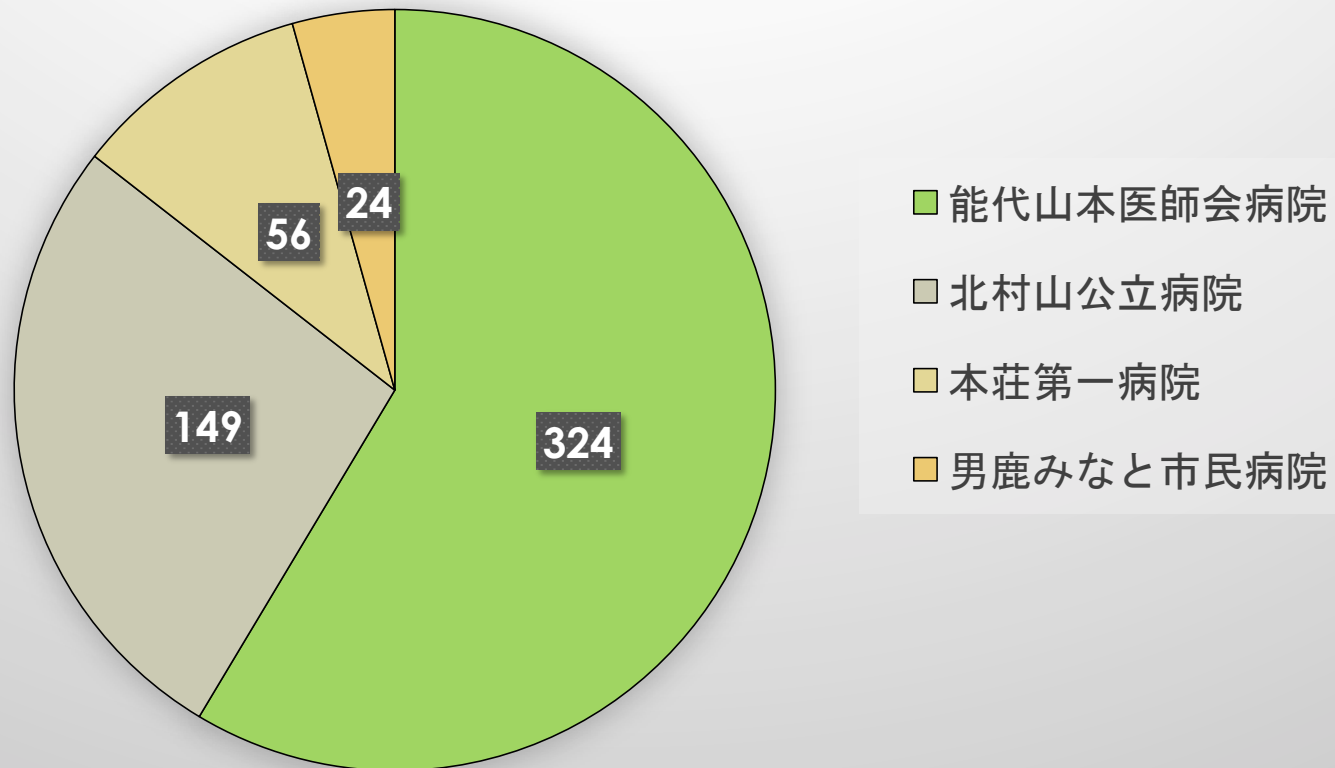
対象

150～250床の病理医不在の中規模拠点病院

- 本荘第一病院（秋田県由利本荘市）
- 男鹿みなと市民病院（秋田県男鹿市）
- 能代山本医師会病院（秋田県能代市）
- 北村山公立病院（山形県東根市）

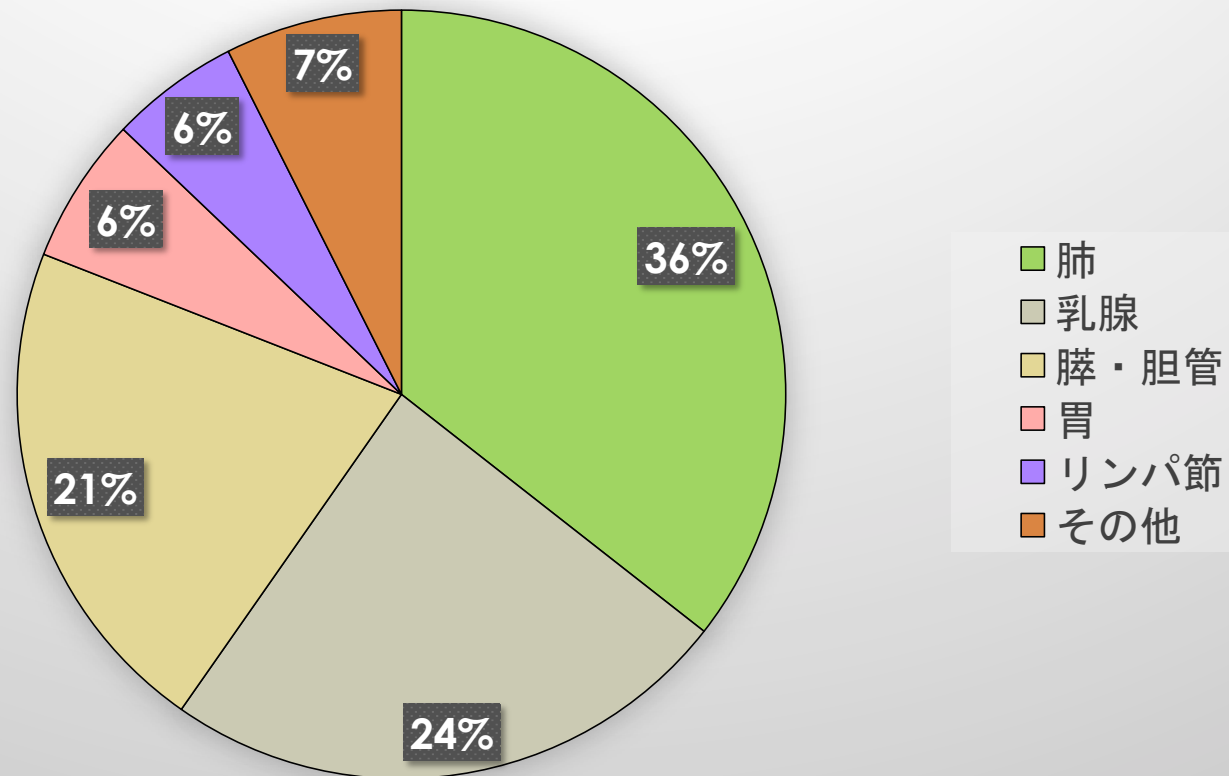
過去5年間の実施件数

病院別実施件数 (553件)



過去5年間の実施件数

部位別実施件数 (553件)



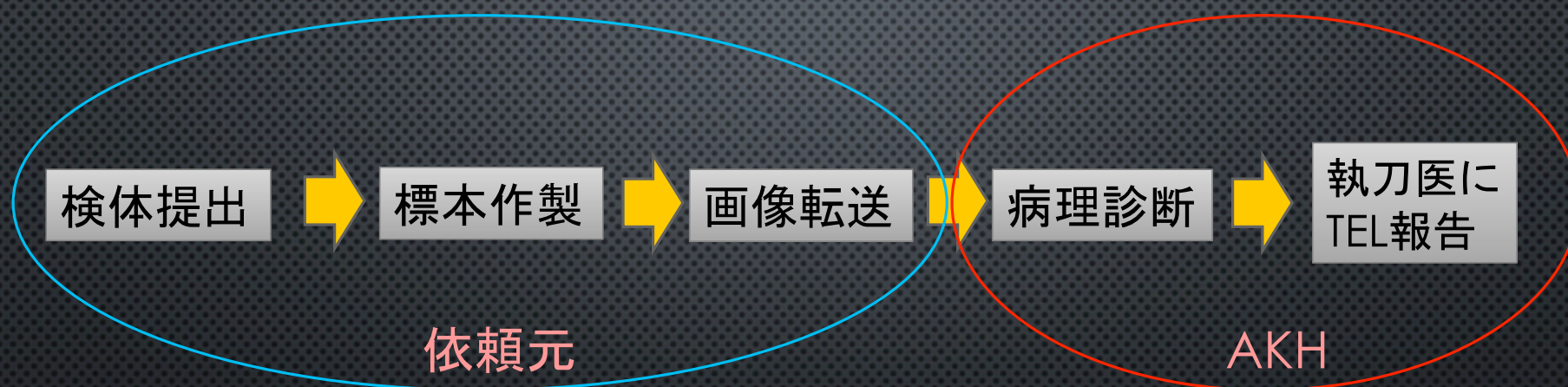
術中迅速遠隔診断の方法

- 本荘第一病院
- 男鹿みなと市民病院
- 能代山本医師会病院
- 北村山公立病院

A : 当センターから技師が出向き標本作製

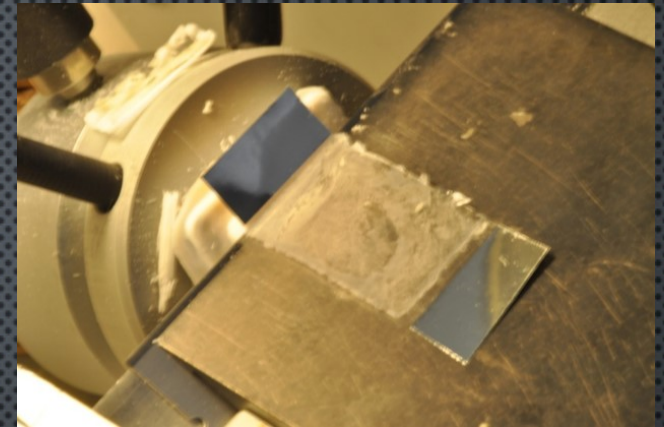
B : 依頼元の技師が標本作製

術中迅速遠隔診断の方法



検体提出から病理診断報告までの所要時間は30～45min

今後の課題



- 標本作製の精度の均一化

↳ Cryo film の導入により標本作製の技術格差を軽減

- 画像の鮮明さの向上

- 通信速度の向上



バーチャルスライドの導入により画像の鮮明さと操作性の向上を目指す

まとめ

当センターの術中迅速病理診断支援は、病院の医師や検査技師からの熱いサポートを受けながら円滑に進められている。昨今、肺がんは区域切除術、乳がんは最小限の部分切除術が増加し、術中迅速病理診断の必要性が高まっている。今後も、診断の迅速性と正確性を高めるべく、遠隔診断機器の更新などを検討し、通信速度と画像の鮮明さの向上を図り、さらなる地域貢献を目指したい。